

狂歌

畫本

阿

ま

孔

川

83

七夕の説

からくんの俗に云ふに天河の東より

麗は女ありて織機織を事とせりて帝

その指す織機と河西の牽牛は嫁を

あひしそのち歡を食むのころそく形を

さぬ升菴とてわさるるやと云ふは織姫の口を

形すす天帝怒り河の東より隔るは只一

一度あり、先きふらんかやうに、おぼろしくも、あ
桂陽城のたふ中、次なるおぼろしく、あ
はり、我國の行き、一、天正、徳寶、七、あり
公事、根、源、一、之、付、続、と、一、平、六、年、七、月、一
文人、と、一、七、夕、の、待、知、賦、と、む、と、續、り、中、紀、よ
志、終、一、と、是、と、その、年、数、乃、あ、り、さ、の、一、は、叙
富士、山、の、お、切、ら、る、を、と、や、い、る、海、本、一、年、博、物、志

七夕上巻

と、愛、ま、ら、る、お、様、一、お、ふ、ら、碎、想、と、の、天、河、志
中、に、ま、ま、ら、る、一、幸、也、お、織、女、と、あ、ひ、ら、り、時、と、無、
いつ、と、も、何、れ、に、あ、る、君、平、と、一、と、い、う、続、て、記、の
は、妻、一、ゆ、り、一、八、月、の、ゆ、な、れ、に、七、月、七、日、を、記、り
と、新、星、合、と、一、と、い、う、か、し、一、と、い、う、や、ま、い、あ、い、ら
あ、も、せ、よ、と、い、う、お、の、む、れ、は、の、郵、海、と、一、と、い、う、は、海、一
は、む、つ、と、一、と、い、う、お、の、む、れ、は、の、郵、海、と、一、と、い、う、は、海、一

葉の生れは雲をぬれぬひし一葉無きまゝの地ハ
すれぬとよむしつまた文は津れの初歌よ詠ふる由
こ那穢姫のよとよひありて楊子船の由若き方
あふことこれあんでその昨夜の禰老んたること
はあかたふししは床よりけり刻限ハ八ぞは抄り
いち志すしは乳をさる我愛人の吟あれん
とありさういしは母とよとよと歌ありし一の

二ノ上ノ式

和歌乃てとく音も香と形よ上天の由事
玉物世心とありしよとよみさるる風力のそとれ
うちそゆし一葉

宿屋飯盛

庚戌七月七日



七夕上
式







七
夕
上
五

















七夕下

尾陽

芦花田鶴丸

積よりも押さへて七夕の恋子のふせり天れ川子

花多遠洲

むらさき今よさらぬ七夕八年よあはれも律義一登ん

濱ま、砂

舟出でて今宵ハ星れ妻近へいさく天の川へつこあ

子賀うらめ

初つぐハ隔一川ハ七夕の恋れ心かぐ埋てすこ

夏永全集

西風よとよきあぐ中やうらめしき一うハ隔つ星の賀りハ

源音九改

源平古交

七夕のときさる新の侍ひよりて下程の一葉はく

源平極より

夢の目ねしくよ定るこそ早えはしくしや翁乃橋

伊能土竹丸

年よつ交早ぬあふ歩の渡し船うーよりあふ定る所

扇折風

光陰のたねめらるとまてあふの的ハさるぬ早急の空

海士細虫

七夕ハ今宵あふまると恋の河で定交癒ハ九くさるん

七夕加一

紀カク女

七夕子何故うんとも惜るしまらうんのちまきふのうのと

紀安磨

定くしてふらり来るおの星今ハ月のさるうよあそびま

巖松織

おの側よも残るん後る瀬子早も花にあ天ぬ川さみ

塔川人如

七夕の天ぬ川瀬子のちせんとおももほむうりのうねと

高坂時成

一と歩よさる一と歩のつぎさる七夕つめよ何と今さる

右馬耳風

母火より花火のあけては向す早や紅葉の橋とらん

紀和奇女

あつらひも七夕つめね玉琴りまてうしくらら今宵あひえ

楓 乎 徒

むれ出く今宵ハ牛も七夕の橋ひの糸や鼻通らん

一升車橋

仮名士のいろは紅葉の橋うけくおきそ一あれ少くも

茶埜玉涌

あつらひる早はらるる流りのよきそしけりきれたの川越

七ノ加二

紀 定 磨

今宵あふ星は下界でおきも戸のきぬ引意の口

奇く羅金鶴

七夕もさくらさくらあきあきや索新れ長持別紙

浅草市人

糸竹のきくく上る七夕のあふよきもむとあきり

園 胡 蝶

星はあ雲は射し自まけしうきりさぬ文月の夜

奈 呂 船 起

いつとも初会きりある唐衣うくは守りあふのお托

市 仲 住

月影のさし合新し虫て来るう満月の早れ髪

老 凶 年 類

ふりるいろ花とらへと天八の計よきりある妻は定路

馬 道 業 解

七夕のあふ衣と早寝さるる汗や流る天の川流

足 曳 山 丸

流るあふ衣とおさゆもやあくる娘のき方八川のきよからん

櫻 枝 鞠

川場の子もよるおや流るる早のあふせくらむるおく

七夕 二

紀 長 人

年くの舞入あふ天川あふけ事も名もあつらん

花 高 丸

七夕の年おつらひ紙一あふくちもけくう毎日の空

胡 椒 丸 吞

星のよいあふおよらけ紙のりて二年よ一衣のあも流る

紅 浦 昼 色

老星のいそけいよりに織女もいそいでると行合おそ

田 原 船 寝

一と染よきとあふてふ五百さの系らと女房誰も初合

天子ありおちあふさねよあふ早きむすくのきのおもひ

高根雪風

七夕のやむ夜をくまきとあふてめりるる川うき

かゝ兼雪道

年よむすくつりて筆舞の玉お笑のねつまを

中より小より

七夕の雲れ夜の寝返祈ふのいとにめあつくさる

ふ家廣住

七夕の今宵くらと舞の羽衣の裏のゆみちの橋やうけあ

七夕三

物事喜丸

七夕の年よ一層んを深のあいのりともくしきをり

森語新美隣

くぬくの出来あも天一方きに骨虚の氣つういひ

千本板菜

かゝぬり心きさけをくニら星のそをくや梅と梅と心

外穂蒼磨

織女といへも天のうき言あふあはる川う一層んのこと

三化羅法師

鶴のこゝせむ橋よむく牛の足まはるおあを更よりの

板唐社人
蛸のくち吸付あふ七夕の夜より
芋のきれは由

花咲子重磨

天川よりせり橋ねぬあま今宵を神心なり今宵を

芳相改
心包ぬり

年よのららとあはれも下月よりえりあやうけ鶯の橋

高砂浦風

索新も短く切て手向し紅きおろしよかふやと

鶯羽風

神代よりあふ七夕ときくうらよゆれいくよれ縁や心こり

七夕四

坊 赤 人

紫麩は子向れ年よらうけとあり飛も糸のあはれ

月合丸重

七夕の天のうらけ海よりさそおきてあはれまきれ

増 明 兼

早合れを採りてあまのすもや流り天のうらあ

一宮士二鷹

天川より茶手向しとまよふ縁の糸切玉子

酒 月 来 人

志の玉に座もさあ七夕のあまのすもや流り

無業 鈴成

五百歳のとりりり正しく一とせよまらと一板のゆきお陸

子安 美来

しら早も年よ一板の舟橋よ先うさうまはるやとらう人

柱 肩 住

一板よもつきせしれ老早れ年のよまれのまきむつ言

籬 唯 沈

年よ一板あふう命の波漕とまらりし神や新合の言

人まね山や保

老早のしらう牛のなれまもさしは糸の初ぐらう

七夕 五

由縁 色 成

いく世あふ早れ髪下界よりやれむとせむやれ一交の

延喜 合 某

老早のしらう牛の七つ目をあふ板の安を羊やとらふ

為 遠 子 文

夏冊のさむお一板の流りよ新もあふる天の川波

屋 職 沖 丸

七夕のまあ 鹽う天の川をうまこちねてとやるぬら星

柳 系 向

雨雲にさひらめと七夕の氣をやみまの橋渡らん

140
16.00

Shigemasa,
Uchou Amamogawa

一板てもかゝるにせしむるまゝくは夕歌のつるのふを
 庭 後 満
 きあまのたれを唯も扱のまひおはふされ宵のうらうら
 宿屋飯盛
 大字よあまの早のさう文字むくあまのハ牛の角文字
 唐 衣 摘 例
 くもろをまゝのさうまゝ川天のさうの砂漏り
 豊 年 雪 丸
 七夕もれいさくらん日くくきさの小神うはを

七夕 六

耕書堂藏板繪本目録

御江戸常盤橋御門本町筋北二八町目通油町

葛屋重二郎

百人 古今狂歌囊 宿屋飯盛撰
古今今人の後自採
彩色摺箱八

十番 繪本百轉 寄 羅全鶏撰
世多きうらまの
喜多川の繪本

五十人 東都曲狂歌文庫 同撰
彩色摺冊

十番 同後編 右ニ同

繪本虫名 同撰
歌麿画
諸虫ニ花生らるる彩色摺

繪本武者鞋 北尾重政筆
大奉 二冊

世六頁 汐子狂歌 歌麿画
彩色摺箱八

繪本八字沿川 同画
三冊

狂歌 繪本和歌夷 同画
彩色摺箱八

繪本吾妻挾 同画
三冊

繪本狂月望 月の名不さうく
彩色摺箱八

繪本江戸爵 喜多川歌麿画
三冊

吉原 契情美人合自筆 名さうに括居
彩色摺箱八

繪本譬喻節 同画
世多きと画きて
彩色摺箱八

